

# 校長先生からのメッセージ



# 高鈴新報

---

第170号



発行日  
**3月6日**

編集担当

出版委員会

## 「感謝の心」と「利他の心」

校長 長山 祐司

皆さんに質問です。「ありがとう」

の反対の言葉は何だと思いますか？マザーテレサは、「ありがとう」の反対は「当たり前」と話されたそうです。

漢字で表記すると「有り難し」になりますから、感謝の気持ちは、「当たり前ではない」と思う心から生み出されることが分かります。

一方で、「当たり前」は、「有って当然」なので、無ければ不満になります。つまり、「感謝」と「当たり前」という気持ちは、人の心の中で一直線上の物差し(+)と(-)と同じように存在していることがわかります。

では、この物差し上でより不幸な人はどのような人でしょうか？言わずもがなですね。「当たり前」の目盛りの数値が大きい、不平・不満の多い人です。心理学者のアドラーは、不平・不満が多い人のことを、「不健全な人」といい、「不健全な人は相手を操作し、変えようとする」と言っています。しかし、仮に、不健全な人が他者を操作してワガママを通し、一時のことで不満を解消したとしても、その人が「不幸になりやすい」ことは、なんら変わることはありません。

では、どうしたらよいのか？アドラーは「健全な人は相手を変えようとせず自分が変わる」、マザーテレサは「暗いと不平を言うよりも、進んで灯りをつけましょう」と述べています。

この二人の言葉を基に考えれば、まずは自分が人のために一歩踏み出して「自立」を目指し、「やっけてもらって当たり前」という依存心と決別し心の目盛りを感謝の方へ動かすこと、つまり、感謝できる人に変わっていくことが大切だと考えられます。

人のための行動は「利他的な行動」といい、人に幸福をもたらし、健康維持にも寄与することが科学的にも証明されています。そして、偉大な経営者であった稲森和夫は、「利他の心で判断・行動し、感謝の心を持つことで、人生と仕事が好転する」と述べています。皆さん、日々、感謝の心と利他の心を大切に生活していきましょう。




**茨城県立日立第二高等学校**

[所在地] 茨城県日立市鹿島町3-2-1  
 [電話番号] 0294-22-3254  
 [校長] 長山 祐司  
 [生徒数] 355人



## 教頭先生からのメッセージ

### 「ブレンドの時代」

#### 教頭 渡邊 俊之

世界最大のコーヒー輸出国はどこだと思いますか？正解はドイツだそうです。最初にこの答えを聞いた時には意外に思いましたが、理由を聞いてなるほど納得しました。ドイツはブラジルなど世界各地から豆を輸入して、様々な種類のブレンドを作って世界中に輸出しているのです。今は一種類の豆の味より、いかにユニークなブレンドを作るかの競争になっているそうです。ブレンドが人気なのは、お互いの個性を生かし合ったり、欠点を補い合ったりして良い味が出せるからなのでしょう。

このことはコーヒーに限らないのではないのでしょうか。優れた文化は、世界の才能を集め、その土地独自の雰囲気の中で競わせ、影響し合うことでできています。例えばバリはファッションの中心ですが、そこに集まるデザイナーの国籍は様々です。また、アメリカのメジャーリーグも、中南米やアジアの選手が参加することでレベルアップが進んでいます。今の時代は「多様性の時代」と言われますが、「ブレンドの時代」と言い換えることもできそうです。



このブレンドの時代を生きるためにはどうしたら良いか。その答えは大谷翔平選手の姿に見ることが出来るかもしれません。彼は、数々のメジャー流のやり方を取り入れたり、英語やスペイン語を話したりします。つまり、新しいものを受け入れて吸収する柔軟さがあるということです。一方、生まれ育った日本で身につけたアイデンティティを大事にすることも忘れていません。彼が見せる礼儀正しさを、今では他のメジャーリーグたちが真似をするようになっていきます。多くの人が「翔平がメジャーリーグをより良いものにしていく」と言っています。二高で学ぶ皆さんにも、恐れずに新しいものにチャレンジするとともに、これまでの人生で培ったアイデンティティに自信を持ち、「変われない強さ」と、変わらない強さ」の両方を兼ね備えて、味わい深いブレンドの時代を作っていくことを期待します。

## 野外活動

### デイズニーシーを満喫！

#### 三年一組 坂本樹花

高校生活最後の野外活動でデイズニーシーに行けたことは、私にとっかかりがえない思い出となりました。友達と一緒にアトラクションに乗ったり、パークの食べ物を楽しんだりしながら、日常では味わえない特別な時間を過ごしました。特に、この日初めて乗ったタワー・オブ・テラーはとてもスリルがあり、友達みんなで楽しむことができました。また、友達と一緒にカチューシャを選んでたくさん写真を撮ったり、お土産を選んだりする時間がとても楽しく、あつという間に時間が過ぎてしまいました。



#### 三年二組 清水美菜

進級して最初にある楽しい行事、野外活動。今年の三年生はデイズニーシーへ行きました。行きバスでは、どこを回ろうか計画を立てている人もいて、みんなとても楽しみにしていました。到着してからは、ゲート前やゲートを通った後の地球の噴水の前にたくさんの人とデイズニーキャラクターがいて、歩くのも大変でした。デイズニーシーはエリアが広く、アトラクションもたくさんあります。アクアトピアやフランダーのフライングフィッシュコースターなどのアトラクションに乗り、思わず声が出てしまうくらい楽しかったです。長時間歩いて、帰りのバスではみんな疲れが見えていましたが、とても満足した笑顔を浮かべていました。高校生活最後の野外活動で、充実した時間を過ごすことができました。

# クラスマッチ

## クラスマッチで躍動！クラスの絆深まる



晴天でのクラスマッチとはいきませんが、運動するには快適な気温と天気で、わたしたちは思う存分に戦うことができました。時にはぶつかり揉めたこともありましたが、最終的に一致団結できました。涙あり、笑いありの、クラスの絆が深まるいい時間になったと思います。

一年三組 大友咲那

この先も、体育祭や文化祭などクラスの子や先生と協力する行事がたくさんあります。今回のクラスマッチで学んだことをさらに活かして思い出に残るものにしていきます。

クラスマッチでは、バレーボール・ドッジボール・卓球・リレーが行われました。クラスマッチは、普段の授業とは違い、クラス全体で同じ目標に向かって協力できる特別な行事だと思います。準備や応援を通して、クラスの仲間とのつながりが深まり、普段あまり話さない人とも、自然と会話がうまれました。みんなの一生懸命な姿を見て、クラスの良さを改めて感じる事ができました。スポーツが得意な人も苦手な人も、それぞれの役割をもって一緒に取り組めたことが印象に残っています。クラスマッチを通して、協力することや一体感の大切さを学ぶことができました。

二年三組 倉持優愛



# 修学旅行

## 美しい海！広大なジャングリア！沖縄での思い出



修学旅行で沖縄を訪れ、多くの貴重な経験をしました。まず、ジャングリア沖縄では、亜熱帯の自然を満喫し、普段見ることができない植物や動物にふれることができました。沖縄ならではの風景の中を歩きながら、その豊かな自然に圧倒されました。次に、美ら海水族館では、巨大なジンヘエザメや色とりどりの魚たちが泳ぐ水槽に感動しました。沖縄の海の美しさと、その中で生きる多様な生物の魅力を感じることができました。そして、ひめゆりの塔では、沖縄戦の歴史を学び、平和の大切さを改めて実感しました。実際にその場所を訪れることで、戦争の悲惨さや命の尊さを深く考えるきっかけになりました。沖縄の美しい自然と歴史的な背景を知ること、この旅行は単なる観光以上の意義がありました。沖縄の人々や文化、歴史にふれ、心に残る思い出となりました。沖縄の自然の美しさとその背後にある歴史的な重みを感じること、深い学びの場となりました。

二年一組 成亥日菜乃  
佐藤美鈴

今回の修学旅行では四日間沖縄に行きました。どの場所もとても綺麗で、沖縄らしさを感じることができました。ジャングリアでは、自然の中を歩いたり、アトラクションに乗ったりし、友達と楽しい時間を過ごしました。美ら海水族館では、ジンヘエザメなどの大きな魚を見て、迫力を感じました。国際通りではお土産を買ったり、いろいろなお店を見てまわったりしました。四日間を通して、普段できない経験をすることができました。クラスや学年のみんなの仲もさらに深まり、とても楽しかったです。思い出に残る、良い修学旅行になりました。

二年二組 小影里奈  
喜多村夢羽



# 体育祭

## 体育祭で大活躍！学年で力を合わせて



一年二組 笠原叶愛

十一月二十日、素晴らしい秋晴れの中で体育祭が行われました。種目は、大玉運び、借り人競争、走って綱引き、追いかけて玉入れ、バーゲンセールがあり、学年対抗で戦いました。どの競技も、学年を超えた熱い戦いが繰り広げられていました。特に、走って綱引きでは、三年生の圧倒的パワーが光り、大盛り上がりでした。午後の部では、リレーが行われました。部活動対抗リレーでは、各部活動が特色を活かしたパフォーマンスを行い、笑いが巻き起こっていました。そして最後に待っていた結果発表。優勝は三年生でした。ですが、勝敗に関係なく楽しみな笑顔と歓声があふれる、二高生らしき全開の良い一日だったと思います。



三年三組 西つくみ

今年の体育祭では、仲間と力を合わせるこの大切さを改めて実感しました。練習ではなかなかうまくいかず悔しい思いもしましたが、本番では互いに声を掛け合い、最後まで全力で取り組むことができました。特にバーゲンセールでは、一人ひとりが自分の役割を果たし、協力することで強い一体感を得ました。また、競技に出ない生徒も全力で応援してくれたため、とても力になりました。大玉運びでは、他クラスの生徒とも協力しながら取り組みました。チームで少しでも息が合わないといすぐにバランスが崩れてしまいうため、声の掛け合いが欠かせませんでした。ですが、ゴールした時の達成感はとても大きく、協力することの楽しさと信頼することの大切さを改めて実感しました。競技や応援を通して、学年全体が一つにまとまる瞬間が何度もありました。仲間との時間の尊さに気づかされ、心に残る体育祭になりました。

# ダンスコンテスト

## 甲乙つけがたい華麗なるダンス！



一年一組 神永小桜  
高橋みはる

十二月二十三日に行われた日立二高のダンスコンテストでは、全校生徒に加え先生も盛り上がる事ができました。年一回行われるこの行事は、一年生の私たちにとって初めての経験で、とても新鮮なものでした。約三週間前から日々練習に励み、グループごとに工夫を加えながらダンスをより良くしていきました。普段あまり関わりがないような人とも協力して仕上げる事ができました。私たちにとってはこれが特別な時間に感じました。二高のダンスコンテストは、一クラスが昭和・平成・令和の三つのグループに分かれて発表します。私のクラスの昭和グループは「ソーラン節」を踊り、見事に昭和グループで優勝することができました。先輩方のダンスは、驚くほど盛り上がり、印象的でした。途中、先生と先輩と一緒に踊っており、改めて二高の良さを実感しました。来年のダンスコンテストも楽しみです。



二年四組 魚田一心  
小関柚奈

十二月二十三日に行われたダンスコンテストは、今まで一番ワクワクした行事でした。体育館に入った瞬間、緊張と楽しさが一気に押し寄せてきました。今回は昭和・平成・令和の三グループに分かれ、一年生から三年生まで、合わせて十二グループで発表しました。最初の練習では振り付けが難しく、覚えるのも苦勞し、みんなで声をかけ合いながら、何度も練習するうちに、少しずつ動きもそろってきました。最後の最後まで練習し、やっと迎えた自分の出番、ステージに立つてもその緊張は直りませんでしたが、音楽が鳴ると、吹っ切れたように楽しくなりました。ダンス中も失敗はしてしまいましたが、思い出しは残りました。このダンスコンテストを通して、協力することの大切さと、やり切ったときの達成感を学ぶことができました。

# 卒業にあたって

## 3年間の思い出を胸に！新たなる旅立ち

三年四組 田村舞桜

卒業を迎えた今、これまでの学校生活を振り返ると、楽しかったことだけでなく、苦しかったこと、悩んだこともありました。

私が印象に残っている行事は体育祭です。高校生最後の大きな行事でも力を入れました。三年生の持っている根性を出し切り、優勝することができました。頑張っているみんなの顔はとても輝いていました。

また、行事だけでなく部活動も思い出に残っています。もちろん楽しかったこともたくさんありましたが、プレーをする上で悩んだこともありました。そんな時近くで支えてくれていたのは、チームのみんなでした。チームの存在があり、今の私があると思います。三年間で本気で何かに取り組むこと、仲間の大切さに改めて気がつきました。今まで支えてくださった先生方、そして仲間、家族に心から感謝しています。この先、困難に直面することもあると思いますが、日立二高で学んだことを胸に一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

